

令和6年第1回姫路市議会定例会（未定稿）

令和6年2月29日（木）

○阿山正人議員（登壇）

通告に基づき、4項目について質問させていただきます。

本会議質問も4日目ということで、重複する質問もありますが、市長並びに理事者の皆さんの的確な答弁をよろしくお願いいたします。

第1項目は、公共施設の適正化の推進についてお伺いします。

その第1点は、進捗状況と今後の見通しについてであります。

令和4年度に改訂された公共施設等総合管理計画は、人口が減少し少子高齢化が進行する中で、将来にわたって公共サービスを提供することを目的に、公共建築物は計画策定時から40年間で施設の床面積総量の20%を削減することとし、令和7年度までに個別実施計画を策定し、施設の最適化に取り組むとして、現在は個別実施計画のロードマップに基づき、対象施設の廃止や転用、運営手法の見直しなどが進められています。

一方で、生活に直結する社会基盤施設については、計画期間を平成28年度から令和7年度までの10年単位で設定し、5年ごとに中間見直しを実施することとされています。

しかしながら、コロナ禍による行動変容やデジタル化の進展などで利便性が大きく向上する一方で、人口減少に歯止めがかからない現状や、先の能登半島地震でのインフラ設備の損壊などを目の当たりにすると、私は社会基盤施設の中間見直しについては、例えば、現在の10年単位、5年見直しを、4年単位、2年見直しくらいのスパンに短縮して、危機管理の観点からも時勢に合わせた計画とすべきだと考えます。

何よりも、公共施設マネジメントの基本は、市民の税金を効率的かつ効果的に投入し、安全確保と市民生活の充実を目的に、公共施設を適正に管理していくことだと考えます。

以上を踏まえて、今年度の計画の進捗状況と公共建築物の個別実施計画策定対象施設のロードマップの前倒しや、社会基盤施設における市民の命に直結するインフラ設備の安全確保に向けて、集中的な予算投入なども含めた今後の見通しについて、本市のご所見をお聞かせください。

第2点は、市民会館の今後の方針についてであります。

市民会館の今後の方向性として、ロードマップでは、令

和7年度末までに建物を廃止する方針とされています。

一方で、昨年の第4回定例会の厚生委員会では、「施設の特性や維持管理・更新等に係る状況を踏まえ、市民会館の在り方について検討を深めていきたい。」と答弁をされており、ロードマップでは廃止、議会には在り方検討と、存続もあり得るとも取れる、ダブルスタンダードな方針を示されていますが、本市として市民会館をどうしようとしているのかが全く伝わってきません。

一方で、市民会館で毎年8月15日に開催される姫路市戦没者追悼祈念式の参加者は、ご遺族の方々をはじめ、ほとんどが高齢者ですが、バリアフリー化はされておらず、本市ホームページのバリアフリー化情報にも掲載されていません。

また、6階、7階にある青少年センターは、夏休みや受験シーズンを中心に多くの学生が利用していますが、館内のトイレは一部しか洋式化されておらず、私のところには市民の方から改善要望が届いております。

存続するのであれば、トイレの改修も含め、早急にバリアフリー化対応すべきであり、また、廃止するのであれば、その旨をしっかりと市民に周知して理解を求めていくべきだと考えますが、改めて市民会館の今後の方針について当局のご所見をお聞かせください。

第3点は、香寺福祉センター廃止後の対応についてであります。

3月末で香寺健康福祉センターが廃止されますが、利用していた団体の活動先は決定したのでしょうか。活動内容によっては、現在利用中の備品の再配置が必要であり、地域活動に影響が出る可能性もあります。

地域コミュニティ活動への影響を最小限に抑えるため、現時点での理解と協力の状況、利用団体との合意状況についてお聞かせください。

第4点は、姫路市の公共施設の温度管理についてであります。

昨年11月19日にあいめっせフェスティバル2023が開催され、イーグレひめじで活動する団体から暖房の要望がありました。

前日の姫路市の最高気温は8.5度で、日光の入らない部屋は非常に冷え切っており、エアコンを入れてほしい旨を伝えたそうですが、イーグレひめじでは冷暖房が11月20日に一斉に切り替わるため、対応が難しかったとのことであります。

調査によれば、一斉切替えの施設は多くが10月末から11月初旬に切り替わっており、11月中旬以降に切り替わるのはイーグレひめじだけであります。

季節の変わり目は気温変化が大きいため、切替時期の見直しや範囲の設定などは、公共施設全体で検討されるべきと考えますが、ご所見をお聞かせください。

第5点は、公民連携の推進についてであります。

私は、平成29年第1回定例会から、毎回この公共施設関連の質問をしております。

そのきっかけとなったのは、公共施設マネジメントの第一人者である、東洋大学P P P研究センターの南学教授の研修を受けたことでもあります。

南氏は、「公共施設の適正管理は、施設の統廃合による集約化や複合化といった内部による行財政改革が中心であったが、今後はP F I、指定管理者制度、D B O方式、包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシングといった公民連携、いわゆるP P Pの取組が時代の潮流になる。」と提言され、包括的民間委託の事例では明石市の学校施設において、これまで営繕課で対応してきた修繕業務を、公共施設の適正化を担う担当部署、本市でいう行政経営課と統合することで7名の人員削減を行い、民間業者と包括的保守管理契約を結ぶことで削減した人件費を民間の専門作業スタッフ5名の人件費に充て、安全性の確保や業務効率を改善させ、1件当たり15万円のコスト改善につなげたそうであります。

また、愛知県高浜市では、市役所本庁舎をリース方式で整備し、民間業者に設計から施工、管理運営までを委ねることにより、10年先、20年先までの費用を平準化することができ、これにより庁舎管理の人件費を大きく削減することができたとのことであります。

これまでの私たちの認識では、市役所庁舎をリースするという発想は全くなかったと思いますが、人口減少が進展する中では、持たないメリットということも十分検討する余地があると考えます。

人口規模や地域特性などを鑑みますと、全ての自治体にこのような事例が当てはまるわけではありませんが、昨年11月には本市でも南教授を招聘して、公共施設マネジメントの研修を受けたそうですが、参加した職員はどのように感じたのでしょうか。

また、今後の展開は計画をされているのでしょうか。

私は、本市の特性なども分析した上で、ぜひ公民連携の

取組を積極的に導入すべきだと考えますが、当局のご所見をお聞かせください。

第2項目は、手柄中央公園の整備についてお伺いします。

第1点は、手柄山中央公園内のスポーツ施設の運営についてであります。

手柄山中央公園では、現在、姫路球場のナイター整備とスコアボードの改修工事、新体育館や屋内競技用プールの整備など、新たなスポーツ施設の整備が急ピッチで進められており、本市のスポーツ拠点である手柄山中央公園が大きく様変わりしていく姿に、一市民として大変期待をしているところであります。

今後は、これらの施設を本市のさらなるスポーツ振興の発展につなげていくことが非常に重要になってくると考えます。

私は昨年の代表質疑において、「新施設に隣接する姫路球場、陸上競技場、中央体育館などは姫路市まちづくり振興機構が、また、県立武道館は兵庫県体育協会といった行政の外郭団体が指定管理者として管理運営を担っているが、いかんせん民間事業者の企画力や財政力には及ばず、公園内のスポーツ施設の利用で市民サービスに差が出ることは、結果的に手柄山全体のにぎわいづくりに影響が出ることも懸念されるだけに、手柄山の全てのスポーツ施設を新たな運営事業者が担い、その傘下で現在の指定管理者が加わるような形態とすべき。」と提案しました。

本市の答弁では、「市民へのサービスが低下しないよう、最も効果的な運用ができる体制づくりが必要だと考えており、本市も含め新スポーツ施設の運営事業者、まちづくり振興機構の3者で協議を始めた。」とのことでしたが、昨年の第4回定例会での総合スポーツ会館の指定管理者議案では、本年4月1日から令和9年3月31日までの3年間は、12のスポーツ施設をまちづくり振興機構が管理することが決定し、総合スポーツ会館、中央体育館、姫路球場、陸上競技場なども引き続き管理することになりました。

一方で、新スポーツ施設は令和8年10月からの供用開始予定となっているため、約半年間は類似施設の管理が重複することになります。

私の調査では、新スポーツ施設の運営事業者の1つであるミズノは、既に本市のすこやかセンターをはじめ、全国で自治体が所有する100物件以上のスポーツ施設を管理運営しており、先日、建設委員会の行政視察で訪問した久留米市でも、久留米中央公園内に立地している福岡県施設の

陸上競技場やテニスコート、久留米市施設の野球場や屋外プール、さらには平成30年に県市共同で新たに建設された久留米アリーナをはじめ、中央公園内に立地する全てのスポーツ施設の指定管理者として、効率的に運営をされています。

ぜひ本市でも、早期にこのような体制を確立して、今後の運営方式なども含め市民への広報PRを行い、供用開始までの機運を醸成していくべきだと考えます。

以上を踏まえ、新たなスポーツ施設の運営事業者やまちづくり振興機構との現在までの協議内容と今後の進め方、さらには県施設の県立武道館も含めた一体での管理運営について、当局のご所見をお聞かせください。

第2点は、姫路球場へのイベント及び大会誘致であります。

現在整備中の姫路球場は、7月24日のプロ野球フレッシュオールスターゲームの開催を皮切りに、今後は夏季の熱中症対策としての活用、プロ・アマトップアスリートが集える大規模大会の誘致、働く現役世代の平日夜間利用、改修されるスコアボードを活用してのパブリックビューイングやコンサートの開催、災害時における屋外避難所など有事での活用など、様々な利用形態が考えられます。

そのような中での今回のフレッシュオールスター開催は、清元市長自らのトップセールスが功を奏し、こけら落としにふさわしいイベントが誘致できたものと認識しています。

一方で、これまでも指摘しましたが、これを単発に終わらせるのではなく、むしろこの誘致実績を強調し、継続的に利用してもらえる大会や、野球以外でのナイトイベントの活用など、新たなイベント誘致策を積極的に展開すべきだと考えますが、これまでの誘致の現状と成果、今後の展開について当局のご所見をお聞かせください。

第3点は、第2期整備計画におけるPark-PFIの導入についてであります。

現在、解体撤去工事が行われている文化センターの跡地活用も含めた第2期整備については、基本計画に基づき令和8年度以降とし、文化センター跡地に、緑の相談所と温室植物園の機能を統合した新たな植物園を整備することとなっていますが、昨年の第1回定例会では「水族館や動物園なども含めた複合施設の整備についても検討を始めたが、一方で、財政状況や社会情勢、市民ニーズなども踏まえ、整備方針の見直しも含めて、子どもから高齢者の方

まで多世代の方が訪れる交流空間の創出の実現に向け、整備を進めていきたい。」との答弁がありましたが、その後の検討状況はどうなっているのでしょうか。

私は、令和4年度の代表質問において、民間活力を導入するPark-PFIを提案しましたが、当時の答弁では、「民間事業者に任せる事業範囲の決定等が重要な課題と分析しており、それらも含めてPark-PFIなどの官民連携手法ができないか、調査・研究を進めていきたい。」とのことでありました。

しかし、専門家の見解では、業務の範囲については全権委託管理ではなく、行政サイドが事前に事業の範囲を決定できるため、非常に自由度が高い手法であるとのことあります。

既に整備が進められている第1期整備の現状を鑑みますと、改めて第2期整備についても、民間活力を導入するPark-PFIを積極的に検討すべきだと考えますが、当局のご所見をお聞かせください。

第4点は、平和資料館のリニューアルについてであります。

本施設は、戦争がもたらした悲劇と惨禍を後世に継承し、かけがえのない平和の尊さを学ぶ施設として平成8年に開館し、これまで毎年4回程度の特別企画展を開催し、地道に恒久平和への啓発活動に取り組み、毎年約1万5,000名程度の来館者が訪れる施設となっていますが、開館から既に28年が経過し、施設の老朽化に加え、マンネリ化といった表現が適切ではないかもしれませんが、戦争を知らない世代には、心に響く施設になっていないように見受けられます。

しかし、一方で、世界中で勃発している武力紛争を鑑みますと、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていく上で、本施設の役割はますます重要になってくると考えます。

そのような中で、昨年10月18日、19日にアクリエひめじで開催された第11回平和首長会議に参加し、事例発表をされた北九州市平和のまちミュージアムを、我々市民クラブの行政視察で訪問しました。

本市をはじめ平和首長会議に加盟している自治体では、先の大戦において甚大な被害を受けたからこそ、惨禍を後世に伝えていくためにこのような施設を整備しているわけですから、基本的にはその展示内容自体は大きく変わらないと認識をしていましたが、この北九州市平和のまちミュージアムについては映像や音響施設、デジタル技術など

を活用して非常に効果的な展示をされ、我々の想像を超える施設でありました。

本会議質問でそのことを伝えるのは非常に難しいところがありますが、まさに百聞は一見にしかずの施設で、大変参考になりました。理事者の皆さん、そして議員の皆さんにもぜひ一度視察していただければと思います。

ちなみに、施設規模では、本市の平和資料館は延床面積1,139平方メートル、2階建て鉄筋コンクリート造、建設費は約6億5,000万円、一方、北九州市の場合、延床面積992平方メートル、1階建て鉄骨造、建設費は約6億円で、これに展示費として約3億円を支出したそうであります。

建設時期が違うため一概に比較はできませんが、本市とほぼ同規模で、令和4年4月19日の開館以降、1年間で3万1,991人が訪れ、当初予想を大きく上回ったそうであります。

本市の平和資料館は、第1期整備計画の整備対象となっていませんでしたが、恒久平和の取組を推進していくためにも、改めて2期整備計画に組み込み、慰霊塔の存在意義なども含めた平和教育を充実をさせ、修学旅行などの誘致を積極的に推進していくべきだと考えますが、当局のご所見をお聞かせください。

第3項目は、臨海部の都市基盤整備についてお伺いします。

第1点は、姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業の進捗状況についてであります。

本事業は、令和12年度末までの間で総事業費約270億円をかけ、臨港道路広畑線の4車線化や臨港道路網干沖線、広畑公共埠頭岸壁の整備を進め、播磨臨海地域道路の整備と合わせ、我が国全体のさらなる経済発展に寄与するとされるビッグプロジェクトであり、昨年7月のアクリエひめじでの起工式を皮切りに、事業がスタートしました。

臨港道路広畑線については令和7年度末完成を、また広畑公共埠頭岸壁は令和8年度末完成を目指し、来年度以降、本格的な整備着手になると思われませんが、昨年7月の起工式以降、現時点までの進捗状況と来年度以降の詳細な整備スケジュールをお聞かせください。

次に、臨港道路広畑線と接続される市道広畑60号線及び国道250号(広畑地区)の4車線化整備についてであります。

昨年、一昨年の代表質疑でも指摘をしましたが、広畑地区でのプロジェクトは、長年交通問題で悩まされてきた地

域住民にとっては、これらの計画促進がさらなる交通量の増加を招き、かえって渋滞が悪化し、それに伴い生活道路への侵入車両が増加することで、日常の安全・安心が脅かされることへの懸念も広がっています。

これらのことから、本市としても、臨港道路広畑線の整備に合わせて接続する市道広畑60号線の4車線化を計画されていますが、国道250号が2車線の現状を鑑みますと、この部分がボトルネックを起すため、根本的な解決につながらないと考えます。

そのようなことから、昨年1月には、地元連合自治会からも兵庫県に対して、正門通交差点から、少なくとも臨港道路広畑線につながる県道才・広畑線の西門通交差点までの、国道250号の4車線化による渋滞対策を求める要望書が提出をされ、また7月には、広畑区・大津区まちづくり協議会の行政懇談会でも強い要望が出されています。

本市としても、令和6年度の兵庫県に対する予算要望書の中で、本区間の4車線化の整備促進を重点事業として要望されています。

一方、県においては、本年度に社会基盤整備プログラムの改定に取り組みされており、この機を捉えて、まずはプログラムに事業として位置づけていただき、早期の4車線整備につなげていく必要があります。

言うまでもありませんが、経済発展に伴う生活環境の改善は同時に進めていかなければ、かえって地域住民の反発を招くことになり、結果的に事業全体で大きな損失を伴うことにもつながりかねません。

そこでお伺いします。

市道広畑60号線の4車線化整備について、拡幅箇所となる地権者との協議状況、また臨港道路広畑線の整備を進める際の工事に伴う車線規制等の影響、さらにはその周辺企業に出退勤する社員の安全確保や渋滞対策なども含め、現時点での進捗状況と今後の整備スケジュールの詳細をお聞かせください。

次に、国道250号(広畑地区)の4車線化について、地元の要望に対する本市の認識と兵庫県の見解、さらにはそれに対する本市の対応策について、当局のご所見をお聞かせください。

第4項目は、姫路市で活躍するトップアスリートの支援体制の確立についてお伺いします。

本市では現在、女子バレーのヴィクトリーナ姫路、女子サッカーのASハリマアルビオン、女子バスケットの姫路

イーグレッツがプロ球団として活動しており、本年からはさわかみ関西独立リーグに参戦した姫路イーグレッターズがプロチームとして活動を開始します。

これらトップアスリートの活躍は、青少年に夢や希望を与え、応援する人々の一体感の醸成につながり、そして地域経済の活性化に大きく寄与してくれると考えます。

それだけに、アスリート自身に結果を残してもらうことはもちろんですが、我々市民もその活躍を後押しする支援体制をしっかりと確立していくべきだと考えます。

アスリートの支援体制については、これまでの本会議質問でも、旗振り役を担う姫路スポーツコミッションの役割が重要であると指摘をしてきましたが、大規模大会の誘致や開催支援、開催に対する補助制度といった、する、見る機会への取組は、フレッシュオールスターの誘致などの成果を上げましたが、アスリートへの支援については、ホームページ上での紹介程度にとどまり、具体策には触れておらず、正直申し上げ、他都市のスポーツコミッションの取組と比較すると非常に物足りなさを感じます。

今回、この質問をするに当たり、全国のスポーツコミッションの現状を調査し、特に政令市、中核市、県庁所在市の中で、本市と地域特性などが類似した自治体と比較したところ、八戸市、盛岡市、仙台市プラス周辺7市町、さいたま市、名古屋市、岡崎市では、ホームタウンとして活動するプロチーム自らが構成団体の一員として参画しています。

また、政令市の仙台市や名古屋市、中核市の青森市、八戸市、盛岡市、いわき市、岡崎市は、商工会議所が構成団体の中心となっているなど、地元経済界を巻き込み、地域一体で支援体制を構築しており、その多くの企業がプロチームのスポンサーとなっています。

一方で、本市の場合は、まちづくり振興機構内に担当部門を設置しているだけで、プロチームや商工会議所は加入をしておりません。

しかし、本市のプロチームのホームページでは、チームによってスポンサー数の多少はありますが、その多くは姫路商工会議所に加入している企業が名を連ねており、このような状況を鑑みますと、商工会議所が構成団体に参画することで、トップアスリート全体の後援会組織を発足することができ、官民一体での支援体制が確立できるのではないのでしょうか。

また、プロチームがスポーツコミッションに参画するこ

とで、例えば、現在改革が進められている学校の部活動の地域移行でも、指導者派遣などで地域の実情に合わせた支援体制などが検討できるのではないのでしょうか。

また、名古屋市では、スポーツコミッション内にプロチームによる連絡協議会を発足をさせ、加盟チームが協力して体験イベントや指導教室などを開催し、青少年の健全育成やプロチーム自らが応援してもらえる環境をつくり、地域活性化や都市の魅力向上に寄与する活動を行っており、このように、姫路スポーツコミッションの構成団体にプロチームや商工会議所、さらにはプロチームと包括連携協定を締結している他市町にも参画をもらい、播磨地域全体で本市で活躍するトップアスリートの支援体制を確立すべきだと考えますが、当局のご所見をお聞かせください。

以上で、私の第1問を終わります。

○三輪敏之議長

清元市長。

○清元秀泰市長（登壇）

阿山議員のご質問中、手柄山中央公園の整備についてにお答えいたします。

まず、手柄山中央公園内のスポーツ施設の運営についてであります。手柄山中央公園内の新たなスポーツ施設の整備に対する市民の皆様の期待は大きく、今後、これらの施設を活動の拠点として、スポーツの振興やまちのにぎわいづくりにつなげることが大変重要であると認識しております。

このため、新たなスポーツ施設の運営が開始される令和8年10月を見据え、現在、本市と新スポーツ施設の運営事業者、及び既存スポーツ施設の指定管理者である一般財団法人姫路市まちづくり振興機構との間で、協議を行っているところであります。

現時点では、管理運営の範囲や時期等の決定には至っておりませんが、引き続き、新スポーツ施設と既存のスポーツ施設との役割分担や、新スポーツ施設の運営事業者とまちづくり振興機構のそれぞれの機能、性格を踏まえつつ、議員ご提案の県立武道館を含めた包括的な管理運営などについて、他都市の事例も参考にしながら、市民の皆様にとって最も効果的な運用ができる方策を検討してまいります。

次に、姫路球場へのイベント及び大会誘致についてであります。本市はこれまで、一般社団法人日本野球機構やプロ野球球団、高等学校野球連盟などに対し直接の働きか

けを行い、プロ野球一軍公式戦やフレッシュオールスターゲームなど、様々な大会誘致活動やトップセールスを行ってまいりました。

その成果としましては、姫路球場のリニューアルこけら落としてイベントとして、フレッシュオールスターゲームのほか、プロ野球オープン戦やウエスタンリーグ公式戦、及び全国高等学校軟式野球選手権大会などの大規模大会の誘致に成功しております。

今後の展開といたしましては、競技団体等と連携を図りながら、社会人野球や大学野球など、平日や夜間を利用した継続的な利用が見込まれる大会や、多目的に活用できるスコアボードを利用した野球以外のイベントにつきましても、積極的に誘致してまいりたいと考えております。

次に、第2期整備計画におけるP a r k－P F Iの導入についてであります。まず、文化センター跡地での複合施設の検討状況としましては、第1期整備の進捗状況や市の財政状況等を勘案しながら、具体的な施設の規模や内容、整備時期といった点を慎重に検討する必要があります。

現状では、本市において、今後、手柄山中央公園再整備以外にも新美化センターの整備などの大型事業が続くことから、第1期整備完了後すぐに第2期整備工事に着手することは難しいと考えておりますが、一方で、既存施設の老朽化が進んでいることから、来年度に、老朽が著しい水族館の劣化調査を行い、施設の安全性の確保、耐用年数などを考慮しながら、施設の在り方を検討してまいりたいと考えております。

また、P a r k－P F I導入の積極的な検討につきましては、今後の手柄山中央公園の整備においては、まずは、文化センター跡の限られた敷地の中で整備可能な施設の規模や内容、概算事業費等の整理が必要であると考えております。

本市としましては、整備の具体的な検討に当たり、民間事業者が担うことが効率的であると考えられる業務範囲を部分的に選定することは可能と考えており、民間事業者のノウハウが十分に発揮でき、事業の収益性等を勘案しながら、今後、議員ご提案のP a r k－P F I導入の可能性なども含め、しっかりと検討を進めてまいります。

次に、平和資料館についてであります。平和資料館は、太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔の近くに位置し、ともに平和の尊さを伝える施設として、同慰霊塔と併せて当館を訪れる学校も多くあります。

一方で、開館から28年が経過し、空調などの設備等の老朽化に加え、常設展示はほぼ開館当時のままであり、機器等の老朽化も進んでおります。

また、平和の尊さを後世に伝え、平和な社会の実現に寄与するため、時代の変化に合わせ、展示の内容や方法のリニューアルは検討すべき課題であると認識しております。引き続き、市内の学校の平和教育と合わせて、修学旅行などの教育旅行でも活用されるよう、教育委員会との連携をはじめ、若い世代にも戦争の災禍や平和の尊さが伝えられるような展示の工夫や、ホームページの充実などに努めてまいります。

議員ご指摘の、平和資料館のリニューアルを手柄山中央公園の第2期整備計画に改めて組み込むことにつきましては、まず、手柄山中央公園全体の在り方を考える中で、他都市の施設なども参考として、全庁横断的に検討を進めてまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

志々田副市長。

○志々田武幸副市長（登壇）

私からは、3項目めの2点目及び3点目についてお答えいたします。

まず、2点目、市道広畑60号線についてでございます。

市道広畑60号線につきましては、昨年度、交通量調査及び現況測量等を実施し、臨港道路網干沖線接続時に対応した道路形態について検討を行った結果、2車線から4車線への拡幅整備をする方針を決定いたしました。

今年度は、決定した方針に基づき道路詳細設計に着手し、接続する既存の国道250号と臨港道路広畑線の整備事業を進める兵庫県や公安委員会などの関係機関との協議・調整を進めており、併せて地元自治会及び沿線の関係者に対して、整備方針や事業概要などの説明を行っているところでございます。

今後のスケジュールにつきましては、来年度は、道路詳細設計が完了した後、拡幅に必要な道路用地の取得に向けて、土地の確定作業を行ってまいりたいと考えております。また、臨港道路広畑線の整備工事に伴う車線規制などの影響により、渋滞が発生することが考えられることから、整備事業を進める兵庫県や公安委員会と連携しながら、必要な交通安全や渋滞緩和の対策を講じてまいりたいと考えております。

今後も、引き続き、当該道路整備の早期完成を目指し取り組んでまいります。

次に、3点目、国道250号（広畑地区）の4車線化についてでございます。

国道250号の慢性的な渋滞は、経済的な損失のみならず、議員お示しの地元自治会から兵庫県への要望のとおり、地域の生活道路の安全・安心に対する大きな課題であるとともに、臨海部と国道2号バイパスとを直結する4車線ネットワークを構築する上で、広畑地区の国道250号の整備が重要であると認識しております。

昨年7月の広畑区・大津区の行政懇談会において、国道250号を管理する県からは、新たに整備される臨港道路や夢前川右岸線のほか、市道なども含めた道路ネットワークを考慮して交通の流れを検討する必要があるとし、今年度、現在の交通渋滞の発生状況とその原因について調査を行っており、その結果を踏まえて、原因に応じた必要な対策を検討するとの回答をいただいております。

本市としましては、広畑幹線や臨港道路、夢前川右岸線の4車線整備が進捗しているこの機を捉えて、市道広畑60号線の4車線化に取り組むとともに、県に対しまして、国道250号の4車線化が、今年度末に改定される県の社会基盤整備プログラムにおいて対策区間として新たに位置づけられるよう要望しており、本年2月に開催された中播磨地域づくり懇話会においても、市長から直接県知事へ働きかけ、県知事自ら現地視察に来ていただくことになっております。

今後とも、早期に事業着手されるよう、引き続き力強く要望してまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

坂田総務局長。

○坂田基秀総務局長（登壇）

私からは、1項目めの1点目のうち総務局所管部分と5点目についてお答え申し上げます。

まず、1点目でございますが、今後、施設の在り方検討が必要な施設につきましては、姫路市公共施設等総合管理計画のロードマップに基づき、個別実施計画を策定し、公共施設サービスの最適化に取り組んでおります。

今年度は、姫路市勤労市民会館、香寺健康福祉センター、香寺いきがいセンターの個別実施計画を策定したほか、公民館、支所・出張所・サービスセンター及び書写の里・美

術工芸館についても、年度内に策定する予定でございます。

今後の推進方策につきましては、人口減少に伴う利用需要の変化や、改修・更新経費の将来推計等を踏まえ、財政状況の悪化が予測される中で、全ての公共施設を現状水準のまま維持することは困難であると考えており、長期的な視点に立った公共施設マネジメントが必要であると認識しております。

また、今後、手柄山スポーツ施設や道の駅などの新規整備が予定されており、施設の床面積総量の増加が見込まれることに加え、人口減少の加速化など社会情勢が大きく変化していることから、これまで以上にスピード感を持って統廃合を押し進め、公共施設の適正化を図ってまいりたいと考えております。

次に、5点目でございますが、本市では、姫路市公共施設等総合管理計画に定める公共施設マネジメントの取組を推進していくため、公共施設の適正配置に向けた意識改革を行うことを目的に、109名の管理職職員を対象として、昨年11月に公共施設マネジメント研修を実施いたしました。

研修参加者の感想は、「現場をよくご存じの講師であったので、非常に有益な研修であった。」「人口減少社会における今後の公共施設管理の在るべき方向性・将来像を考える上で、とても参考になった。」など、公共施設マネジメントに対する理解が深まったという意見が多く、非常に有意義な研修になったと考えております。

今後の展開といたしましては、令和6年度に、総務省と地方公共団体金融機構の共同事業である地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業を活用し、公共施設マネジメントに関するアドバイザーの派遣を受け、外部有識者の意見を参考にしながら、公共施設の適正配置について検討を進める予定といたしております。

また、包括的民間委託等の公民連携の推進につきましても、当該アドバイザーによる助言や先進都市の事例を参考に、今後、調査・研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

植田上下水道事業管理者。

○植田敏勝上下水道事業管理者（登壇）

私からは、1項目めの1点目のうち、上下水道局所管分についてお答えいたします。

上下水道事業におきましては、資材や動力費、人件費の

高騰により、建設費のみならず維持管理費も上昇傾向にございまして、また、水需要の減少による料金収入の減少とも相まって、耐震化、老朽化対策に要する財源確保を含め、厳しい財政状況となっております。さらには、それら事業を担う技術職員の確保も大きな課題になっている状況でございます。

こうした課題に対し、中長期の事業運営指針である、姫路市水道ビジョンや姫路市下水道事業経営戦略の見直しに着手しております。水道ビジョンにつきましては、計画期間の中間年度である令和7年度に、また同時に、下水道事業経営戦略を1年前倒しで改訂することといたしました。

両事業において本年度、有識者及び公募市民等で構成されます懇話会を設置いたしまして、そのご意見を伺いながら、施設の耐震化・老朽化対策、浸水対策などを危機管理上の最重要課題として、将来を見据えた投資計画の見直しを進めているところでございます。

今後、新甲山浄水場をはじめとする大規模な投資事業や老朽化・耐震化対策など優先的、集中的に進めていくべき事業を明確にした上で、施設の統廃合やダウンサイジングなどコスト縮減に努めていくとともに、AIなどの新技術の導入や民間のノウハウの活用なども検討して効率化を進めてまいります。

また、財源の確保につきましては、水道事業、下水道事業における懇話会での審議を中心に、適正な投資規模とそれに見合う料金等収入を見極め、持続可能な事業運営に努めてまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

沖塩市民局長。

○沖塩宏明市民局長（登壇）

私からは、1項目の2点目から4点目についてお答えいたします。

まず、2点目の市民会館の今後の方針についてでございますが、公共施設等総合管理計画のロードマップでは、令和4年度末までに個別実施計画を策定する予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、周辺施設を含めた施設の利用状況が大きく変化したため、令和6年度中の策定に向け、現在作業を進めているところでございます。

現時点におきましては、現在の市民会館は老朽化が著し

いことから、大規模改修は行わず、取り壊しを前提に検討を進めております。

市民会館が担ってきた機能のうち、大ホールでのコンサートなどの興行的な催しの多くはアクリエひめじに移行しておりますが、市民団体等の吹奏楽、舞台、保育園等の学芸会などの利用は依然として多く、市民団体等の活動や発表の場としてのホールの機能は今後も必要ではないかと考えております。

そのため、現在調査を進めている周辺施設を含めた施設の利用状況、利用者のニーズ、今後の人口動態などを勘案し、将来的に必要な機能を見極める必要があると考えております。

これらのことを踏まえた上で、令和6年度中に策定を予定しております個別実施計画では、地区市民センターを含めた周辺施設との集約化、複合化を検討し、施設の方向性を示したいと考えております。

次に、3点目の香寺健康福祉センター廃止後の対応についてでございますが、現在利用されている団体等の皆様には、個別に香寺公民館等の周辺施設を利用いただくよう説明し、おおむね理解をいただいているところでございます。

多くの団体は香寺公民館のほか、香寺北公民館、香寺いきがセンターを利用し、活動を続けられると聞いております。

今後も、各利用団体の方々と丁寧に対応してまいります。

次に、4点目の公共施設の温度管理についてでございますが、イーグレひめじにつきましては、官民で区分所有している複合施設となっております。

各施設においてそれぞれ温度設定が可能となっておりますが、冷暖房の切替えについては集中管理されており、例年の気温等を考慮しながら切替日が設定され、全館一斉に切替えが行われております。このため、季節の変わり目の寒暖差など、気温の変化に対して細やかな調整が困難となっております。

公共施設全体における温度管理を含めた施設運用については、それぞれの施設において快適に利用していただけるよう、適正な運用に努めてまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

大前観光経済局長。

○大前 晋観光経済局長（登壇）

私からは、3項目めの1点目、姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業についてお答えいたします。

姫路港における貨物需要の増大や船舶の大型化への対応に加え、円滑な陸上輸送を確保するため、姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業が、国において令和3年度の新規事業として採択され、令和12年度の事業完了に向け、国・県により整備が進められています。

県事業である臨港道路広畑線の整備は、広畑地区の臨海部と国道250号をつなぐ既存の2車線を4車線に拡幅する事業であり、これまでに詳細設計と電柱の移設工事が完了しています。

令和6年度はガス管等の地下埋設物を移設し、令和7年度には本工事に着手予定であります。完了時期は、地下埋設物の移設件数が想定以上となったため、令和7年度から令和8年度に遅延する見込みであると伺っています。

また、国直轄事業である広畑地区大水深岸壁の整備は、大型船舶の入港に対応した水深14メートルの岸壁を新設する事業であり、令和8年度の事業完了に向け、既に詳細設計を完了し、本工事が進められています。

同じく国直轄事業である臨港道路網干沖線の整備は、網干沖地区と臨港道路広畑線をつなぐ臨港道路及び橋梁を新設する事業であり、令和12年度の事業完了に向け、これまでに環境調査と予備設計が完了し、現在、土質調査と詳細設計が進められております。

令和6年度は詳細設計を実施し、令和7年度以降に本工事に着手予定となっております。

同整備事業により、姫路港広畑地区を中心とした物流機能及び交通機能の強化が図られ、企業の円滑で効率的な海上輸送及び陸上輸送が実現されるとともに、網干地区から広畑地区における道路の慢性的な渋滞が緩和されることで、地域住民の道路利用状況の改善が期待されることから、本市といたしましても、国・県に同事業の早期完了を継続して要望してまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

本庄スポーツ担当理事。

○本庄哲郎スポーツ担当理事（登壇）

私からは、4項目めについてお答えいたします。

スポーツコミッションの運営体制につきましては、全国で様々な形態がある中で、プロチームや商工会議所、さらにはプロチームと包括連携協定を締結している他市町を

構成団体としたスポーツコミッションがあることは認識しております。

本市におけるスポーツコミッションにつきましては、本市と両輪となってスポーツの振興を図る一般財団法人姫路市まちづくり振興機構に委託して、トップアスリートへの支援、大規模大会やスポーツイベントの誘致などを進めているところでございます。

具体的には、トップチームが公式戦を開催する際の会場の優先使用や設営支援、またチームの広報PRにつながるよう、ホームページやスポーツ施設内のデジタルサイネージを用いて活動紹介などを行っております。

姫路球場におけるナイター照明や世界大会、国内主要大会が開催できる新たな手柄山スポーツ施設の整備に合わせ、大規模大会の誘致やトップアスリートの支援を担うスポーツコミッションの役割がさらに重要となることから、運営体制の見直しを検討していく必要があると考えております。

今後、官民一体となったトップアスリートの支援や、トップチームによる中学校部活動への指導者派遣、地域貢献事業への支援などの新たな取組も視野に入れつつ、他都市の事例も参考として、本市の実情に合わせたスポーツコミッションの運営体制について考えてまいります。

以上でございます。

○三輪敏議長

30番 阿山正人議員。

○阿山正人議員

それぞれご答弁をいただきまして、ありがとうございます。

3点、2問をさしていただきたいというふうに思うんですけども、まず手柄山の関係ですけども、市長に全てお答えいただいて大変ありがとうございます。

その中でも、特に姫路球場の大会誘致の関係は、これ直近のことなんで、ぜひ行動を取っていただきたいということなんですけれども。

まだはっきり確認はできてはおりませんけれども、ご承知のとおり、来年4月には大阪・関西万博、これが開催される関係で、万博の会場になるのが此花区の夢洲ですかね。

大阪市のその中心の野球場となっているところが此花区にある舞洲ベースボールスタジアム、それが舞洲のほうにありまして、もう1つが住之江区に南港中央野球場とい

うのがございます。

これ、北と南にあるんですけども、その真ん中にちょうど万博の会場があるということを考えると、今の交通アクセスの関係を考えると、非常に利用が制限される可能性が高いということで、今、市長のほうからは、社会人とか大学野球とかというお話をしていただいたんですけども、特にこの関西地区の中心で使われているこのアマチュアの主要会場になってるとこなんです。

ですから、ここの球場が、制限を受ける可能性が非常に高くなるんじゃないかなと、まだ私も確認はできていないんですけども。

これ大体シーズンに入って、ですから野球のシーズンでしたら今もうプロのキャンプとかもやっていますけれども、4月から大体10月までぐらいで、当然野球全体、アマチュア野球のほうも、そのときがちょうど開催時期になります。

来年の4月から10月というところで利用制限をされる可能性があるのと、それと同時に、大体、次の年のシーズンの中での利用の場所とかそういったものを決めるのが、大体その1年前になりますんで、今年の4月から10月までの間で、大体その辺のところが決まってくると思います。

そんなところを考えると、ぜひ、何て言うんですかね、アンテナを張り巡らしていただいて、しっかり情報集めていただくというのと、もう1つが、やっぱりこのフレッシュオールスターの誘致というのは、市長自らが動いていただいて、やっぱトップの熱量とか、トップ自ら動いていただくというところは非常に効果があるというふうに思っておりますんで、私もそういったところで情報を収集しながら連携はさせていただきたいと思うんですけども、ぜひそういったときには、市長自らが行動を取っていただければなというふうに思うんで、その辺のところ再度ご答弁いただければなというふうに思っております。

それから、2つ目なんですけれども、志々田副市長から国道250号のお話をいただきまして、4車線化の話ですけども、先ほど2月の16日に中播磨の地域懇談会で、市長もその要望をしていただいたという、これ神戸新聞にも出ておりましたけれども。

その際に、知事のほうで現地視察に来られるというお話をされてたということで、今のご答弁見ると、まだ来られていない。当然会期中だからなかなか難しいのかなというふうに思うんですけども。

ただ1つお願いをしておきたいのが、これ昼間に見て、来てもらっても、正直、出退勤の時間帯を含めた工場車両の多さっていうのがすごいんです。

実は私も、今日もそうですけども、朝、その近所、近隣におりますから、市役所に出てくるまでも、その一番最初の信号で全く動かず3回ぐらい信号が変わってしまうということも多々あるんです。

ですから、その辺のところをね、できるだけ今の実態に見合ったところでの状態を見ていただく。もしそれが不可能であったとしても、その現状をお話をいただいて、しっかりと写真撮るとか、記録を見せていただくとか、そういった形にして、実態は例えば、そんなに混雑してない状況見られてどうもないじゃないかと言われてしまうと、これ元も子もないんで。

その辺のところはしっかりと、実はこうなるとるけども、一番混んでる時間帯はこんな状態なんだよというところなんかも含めて、しっかりとお示しをしていただくような形を取っていただきたいというふうに思いますんでよろしくお願ひします。

それから最後、トップアスリートの支援体制というところで、スポーツコミッションの関係をお話をさせていただきました。

今、本庄理事のほうから言われたのは、まちづくりに委託をしとるという話なんですけれども、委託というよりも指導をするというか、一緒になって、こういった私たちの、私が今回提案させていただいたようなことなんかも含めてね、しっかりとそういったことも、まちづくりの中で検討いただくような形で言っていたかかないと、委託をしとるからあとは任しとるねっていう形になるのがこれ一番困るなというふうに思うんです。

1つ、私のほうからは、これちょっと提案させていただきたいんですけども、実は今、既存のプロチーム、新しく姫路イーグレッターズ、独立の野球リーグが入って今4つになりましたけども、今までは、その3つのチームのホームページがまちづくりの中にホームページに出てますよね、リンクして入ってますよね。

その中の2チーム、いろいろ調査したら、そのある2つのプロチームの中に、本市の理事者級の職員のOBの2名の方が役員で就任されてるんです。

退職された方が民間の団体の役員に就職をされてるっていうことは、別にそれもとやかく言うつもりはないんで

すけども、こういった形で就任されているのであればね、まちづくりの中で、例えば、今いらっしゃる姫路市の職員の方が、スポーツ行政に携わった方が、OBとして今期退職されたら、そういったところで派遣して、何か協力をしてもらうとかね。

そういった体制なんかも組んでいっていただかないと、やっぱりせっかくこうやって地域の中でスポーツ団体が活躍してくれようとしているんで、やっぱり今まで行政に携わった人たちも一緒になって、その支援体制を、個別のチームにするのはあかんというわけじゃないんですけども、やっぱり、まずはそのまちづくり振興機構の中の姫路市スポーツコミッションの中で、官民合わせた中の一員として、市役所のOBなんかでもスポーツ行政に携わった人が入っていただければ、これやっぱりかなり力を発揮していただけるんじゃないかなというふうに思いますんで、ぜひその辺も検討いただきたいと思うんですけども、再度ご答弁をいただければなというふうに思います。

以上です。

○三輪敏之議長

清元市長。

○清元秀泰市長

ご質問ありがとうございます。

まず、関西万博の開催期間中に、それぞれの野球場等のスポーツ施設がかなり使いにくい状況になるので、そういったことをうまく活用して、姫路で社会人野球であったりとか、様々な、これまでなかったような大会の誘致を積極的にというお話だと思います。

これに関しましては非常に重要なことで、アンテナを張りながら、いわゆる阪神地域、いわゆる尼崎とかそういったところにも鳴尾とかの整備もやっておりますので、かなりライバルの多いところではあるかと思えます。

本市におけるホテル事情とかそういったこともあって、なかなかライバルは多いとは思いますが、阪神甲子園球場と同じぐらいの仕様のLEDナイター、そして土についても甲子園球場に遜色のない姫路球場という、プロの人たちが使ってみて、すばらしい球場ということをおっしゃっていただければ、しっかりとアピールして、様々な姫路球場の魅力をアピールすることで大会の誘致に努めていきたい。

それには当然、市長のトップセールスが重要であるということで、全庁挙げてアンテナを張り巡らしながら、野球イベントだけでなく、様々なスポーツイベントやコンサー

ト等についても、前向きに行っていきたいと思っております。

○三輪敏之議長

志々田副市長。

○志々田武幸副市長

国道250号の県知事のご視察についてなんですが、議員おっしゃるとおり、時間帯、一番厳しい時間帯がやっぱり一番困っていることでもありますので、ちょっと時間、実際に現場を見る時間帯につきましてはなかなか調整も難しい部分はあると思うんですが、ご指摘いただいたとおり、写真あるいは実際の状況がしっかり伝わるような形で。

それと併せて、市としましても、市道60号、さらに結構厳しい事業を並行して進めているという実情も含めて、しっかり伝わるような場に、できれば市長から直接伝えるような場もできれば望ましいと思っておりますので、その辺りも含めて検討していきたいと思えます。

よろしくお願ひします。

○三輪敏之議長

本庄スポーツ担当理事。

○本庄哲郎スポーツ担当理事

ご質問いただいた件です。

姫路球場に照明が、また間もなくつきます。また、新しい体育館のほうも今後、完成していきます。

そうしますと、答弁でも申しましたように、スポーツコミッションの役割は本当に重要になってきます。

その中で、今、現在委託してまちづくり振興機構にやっていたわけですが、議員おっしゃるように、一緒になって、もう少し小回りが利きながら、もう少し拡大できないかとか、いろいろ考えながら、一緒になって、いい体制と言いますか、いい運営ができるように考えていきたいと思えます。

また、職員のOBの協力体制、そういうものについても、どのように関わっていただくのかということも内部で検討しながら、いいものをつくっていききたいと思っております。

以上です。

○三輪敏之議長

以上で、阿山正人議員の質疑を終了します。